

「創刊 30 号 ほぼ隔週太っ腹新聞」～見ることのなかった一本のドラマの巻

～

読売センター代田橋梅丘 所長 柴田秀昭

平成 23 年 3 月 11 日、午後 2 時 30 分過ぎ、所用で外出した帰り道、出発間際の新宿駅小田急線の車内で私は一通のメールに返信をしていました。相手は川端吉彦氏。日頃よりとても親しくさせてもらっている同じ読売新聞販売店主です。

「今日の夜 9 時からフジテレビでドラマ「故郷」があります。五島列島に住む私の同級生が主人公のモデルです。くだらないハナシですが良かったら見てください」 by 川端。 14 時 16 分

長崎県五島列島出身の川端さんは自分の故郷を舞台としたドラマを私にも見て欲しいと思い送ったこのメール。まあ、たしかにたいした内容ではないような。しかし、私はこのメールへの返信をうきうきして打っていました。そしてその時、電車がゆりかごのように大きく揺れ始め、ただならぬ一大事と感じた私はとっさに車外へと出たのです。駅員の指示で改札を出て、すぐにタクシーに飛び乗り自宅へ。道路もまだ渋滞しておらず帰宅難民にならずに無事帰宅できたのは幸いでした。そう、「3.11 東日本大震災」。その後の惨状は皆さんご存知のとおり。もちろん川端さんが楽しみにしていたドラマは放送されず。

ところで、なぜ私はうきうきしてメールを返信していたのか。実は川端さんかねてより病氣療養中。2 月はじめに胃の不調を訴え検査したところ突然の末期ガン宣告。肝臓にも転移で手術不適合により抗がん剤治療をしていた時期だったのです。人は不幸なことがあると「なぜ自分が・・・」そう思うもの。川端さんも同じでした。しかし家族の励ましとともに前向きにガンと立ち向かうことを決意。抗がん剤治療を始めたのでした。そうはいっても抗がん剤の副作用をはじめとする体調不良は避けられず、見舞いに行った病室でも、ほぼ毎日のメールのやりとりでもなかなか明るい話題になることは少なく・・・そんななか届いたこのメールはわけもなく私を嬉しくさせたのです。

それから数ヶ月。闘病生活は自宅療養と入院生活の繰り返し。民間療法も含め様々な治療を試みるも快方にむかったとは言えず、6 月半ばより転院。一週間後からは緩和ケア病棟へ。それは結果的に最後の見舞いとなった 7 月 1 日でした。震災の日に放送されなかったあのドラマが 7 月 5 日に放送されることを知った私は、川端さんに早速伝えたところ「そうか、7 月 5 日か。見れるねえ」と弱々しくもうれしそうに答えたのでした。でもそれから数日後、7/5 放送当日の朝でした。容態が急変し、川端さんが永遠の眠りについたのでした・・・享年 59 歳。合掌

お通夜、告別式を終え早一ヶ月。私の心の中の喪失感は変わるものがなく、ただただ、ため息の日々。ちなみに、あの番組は、先日録画したのを見ました。内容は良く覚えていません。でも五島列島のきれいな海だけは鮮やかな印象が。

なにやら重苦しい話題となりごめんなさい。いつもの太っ腹新聞とは違いすぎですよ。でも現在の自分自身の気持ちを正直に書くことで区切りをつけるべく今日は書かせてもらいました。そして次回からはあのおバカな太っ腹新聞の復活です。皆さんどうぞよろしく！川端さん、オレ頑張るからね。

さて、今月のプレゼント！今月は今公開中のジブリ映画

コクリコ坂からのフェイスタオル&クリアファイルセット

白地に海の通信旗の刺繍（この通信旗が映画のキーポイントになつてます）が入ったタオルと特製クリアファイルをセットでプレゼント！

お申込は 電話 3429-3965（月～土夜 9 時、日・祭昼 12 時まで）

ファクス 3439-3409 メール info@yc-shibata.co.jp

先着 100 名様限り。お届けは 8/12 以降になります。では、また次回！